

怪談

ホラー
~Horror~

【平将門の首塚】

平安時代の武将・平将門は、領地を巡って同族間で対立。次第に関東一帯で大きな勢力を握り始め、朝廷からの独立を宣言した。だが、「新皇」を名乗ってからわずか二ヶ月後、^{ふじわらの}藤原秀郷らの討伐軍に敗れ、将門の首は京都に送られた。ところが、七条河原で晒された将門の首は、夜な夜な目を開き、叫び声をあげるようになった。そして三日月の夜、ついに浮き上がった首は関東を目指して飛んでいき、現在の千代田区大手町付近に落下した。その際、^{どろ}大地は轟き、太陽の光は消え真っ暗闇になったという。人々は将門の祟りを恐れて塚を築き、冥福を祈った。これが現在の将門塚である。

【バンシー】

アイルランド及びスコットランドに伝わる怪異。死を予告する精霊とされ、「泣き女」と訳されることが多い。アイルランドで語られ、「ベンシー」と書かれる精霊の話では、若い女の姿で現れる。この精霊は緑の衣に灰色の上衣を着た、長い髪を持った美しい女とされ、死者のために泣き続けているために目は真っ赤だとされる。バンシーが家族に迫る死を知らせるときは、歌ったり叫んだりするが、姿はまれにしか見えない。しかし、その叫びはとても悲しく、間違いなく死を告げる声のように聞こえるという。

【のっぺらぼう】

夜道や学校などにいる子どもに声をかけるという怪異。その子どもが振り返ると、目も鼻も口もないのっぺらぼうだったという話が多数伝わる。またタクシーの客がのっぺらぼうだったとか、トイレの前に現れたという話もある。